

学習指導案(小児健康生活支援論Ⅱ)

指導者

1 履修単位数	1単位
2 実施日時	令和7年10月27日(月) 3限目(13:20~14:50)
3 学 級	専攻科1年生(38名)
4 使用教科書	系統看護学講座 小児臨床看護各論(医学書院) 系統看護学講座 小児看護学概論 小児臨床看護総論(医学書院)
5 単 元 名	呼吸器疾患と看護

6 単元設定の理由

(1) 学生観

本授業の対象である専攻科1年生は、看護科3年間で培った基礎的な知識と技術を土台に、より専門的な学びを深めている段階にある。学生は素直で前向きな姿勢を持ち、学習に対して意欲的である。すでに子どもの成長や発達、子どもを取り巻く社会的背景、病気や障害が子どもに与える影響についての学習を終えており、一定の理解を有している。7月には幼児との交流会を経験しており、子どもとの関わりの難しさや楽しさを実感した。しかし一方で、疾患を抱える子どもと接した経験はほとんどなく、実際の看護場面を十分にイメージできない学生が多い。可能な限り具体的な事例や体験的な学習を通して、理解を深める必要がある。

(2) 教材観

呼吸器疾患は、小児において頻度が高く、成長発達に大きな影響を及ぼす疾患群であり、看護師としての専門的な理解と対応力が求められる重要な学習内容である。特に乳幼児期は呼吸器系が未熟であり、観察や対応の遅れが重篤化につながる可能性があるため、疾患の理解とともに、子どもの状態を的確に捉える力を養う必要がある。また国家試験でも頻出で、臨地実習でも出会う機会が多いため、学生にとって実践的な学びにつながる教材である。その中でも気管支喘息は、慢性的な経過をたどる疾患であり、発作時の急性対応だけでなく、日常生活における予防や環境整備、家族への支援など、継続的な看護が求められる。子ども自身が症状をうまく言語化できないことも多く、看護師には観察力とコミュニケーション力、そして子どもと家族の生活に寄り添う姿勢が必要であるため学生が交流した小児の事例をもとにするなど、実際の子どもの像をイメージしながら学びを深めることで、知識と実践を結びつけることをねらいとしている。

(3) 指導観

本単元では、学生がこれまでに学んできた小児の成長・発達、病気や障害が与える影響、家族支援などの知識を統合し、実践的な看護の力を高めることを目指す。気管支喘息の看護場面をロールプレイで再現し、その様子を学生自身が撮影・編集して動画教材として仕上げる活動を取り入れることで、主体的・協働的な学びを促進する。台本の作成から演技、撮影、編集までを学生が協力して行うことで、看護のプロセスを多角的に捉え、実践的な力を養うとともに、他者と協働する力や表現力、振り返りの力も育成する。完成した動画は授業内で共有し、相互にフィードバックを行うことで、知識の習得にとどまらず、「考える・表現する・振り返る」という学習の循環から、学生の専門性と実践力の向上を図る。

7 単元の目標

- (1) 呼吸困難やチアノーゼなどの呼吸器症状を示す子どもの特徴及び原因となる代表的な疾患の病態や治療について理解するとともに、関連する技術を身につけている。
- (2) 呼吸器症状を示す子どもに対し、発達段階や病期を踏まえた援助について課題を発見し、アセスメントや援助

の根拠に基づいて解決策を見いだす。

(3) 呼吸器症状を示す子どもの看護について患児や家族を具体的にイメージしながら自ら学び、よりよい看護を目指して主体的かつ協働的に取り組む。

8 単元の評価規準

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 呼吸困難やチアノーゼなどの呼吸器症状を示す子どもの特徴を理解している。 呼吸器症状の原因となる代表的な疾患の病態や治療について理解し、具体的な看護を実践できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 呼吸器症状を示す子どもの状態を、発達段階を考慮してアセスメントできる。 気管支喘息の子どもに対し、病期を踏まえた具体的な援助を考慮することができる。 自分の考えたアセスメントや援助を根拠に基づいて論理的に表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 呼吸器症状を示す子どもの看護に関心を持ち、患児やその家族を具体的にイメージしながら、その子にとってどのような看護が必要か、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

9 指導計画（10 時間）

第1次 呼吸器症状を示す子どもの看護・・・1時間

第2次 呼吸器症状の原因となる代表的な疾患・・・1時間

第3次 気管支喘息の看護・・・8時間（本時7・8/8）

	【ねらい】・学習活動	評価の観点			評価規準 評価方法
		知	思	態	
第1次	<p>【呼吸器症状を示す子どもの発達段階に応じた特徴や観察ポイントを理解する】</p> <ul style="list-style-type: none"> 呼吸器症状（呼吸困難、チアノーゼなど）のある子どもの特徴や看護について、小児の呼吸器系の解剖・生理的特徴や成人と比較して学習する。 	●			呼吸器症状の種類と特徴を理解している。 (個人ワークシート)
第2次	<p>【呼吸器症状を引き起こす代表的な疾患について学び、病態の違いや症状出現の機序を理解する】</p> <ul style="list-style-type: none"> 代表的な疾患の病態・症状・治療・看護について資料をもとに整理する。 	●			疾患の病態と症状を正しく説明できる。 (個人ワークシート)
第3次	<p>【気管支喘息の病態・症状・治療・看護を理解し、子どもと家族に寄り添った看護を実践的に考える。ロールプレイと動画制作を通して、看護の実践力と協働力を高める】</p> <ul style="list-style-type: none"> 気管支喘息の病態・症状・治療・看護について学習し、事例検討を行う。 5歳児の事例をもとに、実習記録用紙に基づいて看護過程を展開する。 	●		●	気管支喘息の病態や看護について正確に理解している。 (小テスト) 看護の根拠や発達を踏まえた関わりが、台本やロールプレイに反映できている。(台本・動画内容)

	<ul style="list-style-type: none"> ・看護場面の台本をグループで作成し、ロールプレイを実施し、撮影・編集して動画教材を完成させる。 ・動画を視聴し、相互にフィードバックを行う。 ・振り返りシートを記入し、子どもへの接し方等を整理する。 			●	協働的に活動し、子どもの状態に合った看護を考えようとしている。(グループワーク) (振り返りシート)
--	---	--	--	---	---

12 本時の展開

(1) 本時の目標

- ・病態を踏まえた看護や発達段階を考慮した関わりの工夫を表現できる。(思考・判断・表現)
- ・病態および発達段階を踏まえた看護について、重要性に基づいて改善点を見いだしている。(思考・判断・表現)

(2) 展開

時間	学 習 活 動	指導上の留意点	学習活動における 具体的評価規準	評 価 方 法
導入 10分	本時の目標・学習内容を知る。 事例の内容について再確認する。	本時の目標・学習内容について提示する。 事例の内容を想起させる。(動画)		
展開 70分	【動画視聴】 ・6班に分かれて事前に作成した「気管支喘息の事例に対する看護」のロールプレイ動画を順に視聴する。1本8分程度 ・作成班は各動画視聴後に補足説明を行う(必要時)。 ・ワークシートにメモを取りながら視聴する。(良い点・改善点)	・動画は事前に共有してもらいダウンロードしたものを教員タブレットで流す。 ・各動画視聴後の補足説明はうまく伝わらなかったと思う箇所のみとする。 ・「病態を踏まえた看護」「発達段階を考慮した関わり」の視点で視聴するよう促す。	病態を踏まえた看護や発達段階を考慮した関わりの工夫が表現されている。 【思考・判断・表現】	動画 ワークシート
	【協議】 ・6本すべての動画視聴後、各自の気づいた良い点・改善点について意見を共有する。 ・意見をまとめ MetaMoJi ClassRoom に書き出す。 ・良い点と改善点1つずつ、各班が発表する。	・活発に意見交換できるよう、机間巡視をして声をかける。 ・改善点を発表する際は、伝え方にも注意するよう促す。 ・各自の意見(良い点・改善点)は授業後にFormsに入力してもらい、次回授業時に各班にフィードバックする。	病態および発達段階を踏まえた看護について、重要性に基づいて改善点を見いだしている。 【思考・判断・表現】	観察 MetaMoJi ClassRoom
まとめ 10分	本時での気づきを Forms に入力し、学びを整理する。 ・数名発表	本時全体を通して感想および気づきを今後どのように活かすのか考えさせる。		

(3)評価および指導の例

A	十分満足できる	・病態を踏まえた看護や発達段階を考慮した関わりの工夫が動画の中で明確に表現されている。 ・病態および発達段階を踏まえた看護の重要性を自分の言葉で表現でき、どのように次に活かすかを考えている。
B	おおむね満足できる	・病態を踏まえた看護や発達段階を考慮した関わりの工夫が表現されている。 ・病態および発達段階を踏まえた看護について、重要性に基づいて改善点を見いだしている。
C	Bを満たさない生徒への具体的な手立て	・他班からのフィードバック等を参考に、病態を踏まえた看護や発達段階を考慮した関わりの重要性について理解を促す。